



臨床糖尿病支援ネットワーク

MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

糖尿病療養指導士の重要性 ～患者・医療者それぞれの立場から～

【当法人評議員】
立川相互病院

長谷部 翼 [理学療法士]

今から約11年前に私は理学療法士免許を取得し、急性期・回復期病院、介護保険領域でリハビリテーションに従事してきました。現在は急性期病院で糖尿病患者さんへの運動指導に身を投じていますが、その志を持ったのは私自身の貴重な経験が関係しております。今回は、会員の皆様へ糖尿病療養指導の重要性について私の経験談を共有できればと思います、記憶を遡りながら書き起こしてみました。

高校1年生の冬、突然に感冒様症状や口渇・多飲・多尿がエンドレスに襲い、部活動後にはこむら返りを起こし、「これは普通じゃない！」と思い自宅近くのクリニックを受診。HbA1cは14%台と高値、元々痩せ体型でしたが体重は45kg(BMI 約15kg/m²!)まで痩せ、医師より1型糖尿病と宣告されました。「糖尿病、何それ？もう一生治らないの？」と絶望や不安・悲しみなど色んな感情を抱き、病気を受け入れられず当時は血糖管理も適当に行っていました(今振り返ると猛省)。

そんな自分を変えてくれたのは、CDEJを持つ看護師さんの存在でした。毎月の診察の合間に「体調はどうか？学校生活は楽しい？」「インスリンポンプの使い心地はどうか？」などとこまめに接してくれましたが、自らを塞ぎ込んでいた私はその場しのぎでの返事をする程度でした。それでも嫌な顔をせず接し、私が求めた時に必要な指導をしてくださったことで、徐々に病を受け入れ行動変容をするようになりました。これは、石井均先生の著書(病を引き受けられない人々のケア:医学書院)に書かれている『“聞くこと”、“時間をあげること”、“付き合うこと”、“居るだけを肯定できる関係”などは糖尿病治療にとっても重要な要素』と重なる部分で、糖尿病という『疾患』だけでなく、『病』(ある人にとって固有の症状や苦痛の体験であり、(中略...))、どう感じ、どう過ごし、どう対処していくかという経験を持つ人として理解し関わってくれたのではないかと感じています。

そんな経験が医療従事者を目指す最大の原点となり、今は患者—医療従事者の双方の立場から療養指導に携わるとともに、糖尿病専門医の先生方、療養指導に携わるコ・メディカルや本法人の世話人の方々と出会い、充実した日々を送っております。

療養指導に関わる皆様には、専門職としての知識・経験を伝えることは勿論ですが、患者さんの「表情」や「会話」を感じ取り、“如何に伝えるか”を大切にしてください。当法人としても「この人になら指導してもらいたい」と思われるような療養指導士を育成できるようサポートできればと思います。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。
(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 ● 次の文章を読んで以下の質問に答えてください。

59歳女性。34歳で第1子妊娠時、妊娠糖尿病を指摘され食事指導を受けたが、出産後は医療機関を受診せず。半年前から口渇、多尿、10kgの体重減少、下肢のしびれと疼痛、立ちくらみを認め、当院受診。また、霧視のため眼科を受診し、増殖前糖尿病網膜症を指摘された。

飲酒:焼酎 2合/日、喫煙:20本/日 身体所見:身長 152cm、体重 42kg、血圧 174/82mmHg(臥位)、119/62mmHg(立位) 脈拍 58拍/分(整) 心音・呼吸音異常なし 神経学的所見:両下肢のしびれ感・疼痛あり。しゃがみ立ち困難。両側膝蓋腱反射消失、両側アキレス腱反射消失。C128音叉による足関節内踝での振動覚検査は左右とも5秒検査所見:空腹時血糖値 259mg/dL、HbA1c 13.0%、尿糖(4+)、尿タンパク(+)、尿ケトン体(-) 心電図 R-R 間隔変動係数(CVR-R) 0.52%

問題10 この患者への対応について誤っているのはどれか、1つ選べ。

- 胸痛などの自覚症状がなくても心血管疾患を含む大血管症の評価を行う
- 立ちくらみの予防のため弾性ストッキング着用を勧める
- 糖尿病足病変のハイリスク患者でありフットケア指導が必要である
- 糖尿病足病変の予防のため禁煙を指導する
- 両下肢の筋力低下があるので直ちに運動療法を行うように指導する



報告

西東京CSII普及啓発プロジェクト 第24回研修会

日時: 令和5年6月20日(火)
オンライン

[当法人評議員] 大和調剤センター 森 貴幸 [薬剤師]

令和5年6月20日(火)にアストロ薬局研修室を配信会場として、各地をZoomで繋いで西東京CSII普及啓発プロジェクト第24回研修会を行ったのでご報告いたします。

今回のメインテーマを『ハイブリッド・クロズドループの使い心地は? ~新たな技術の評価と使い勝手は?・症例検討』として情報提供並びに実際の機種に触れてみる内容で開催いたしました。

ご講演は神戸大学糖尿病内分泌内科の芳野 啓先生から『デバイスの使用経験・評価について』についてご講演いただきました。芳野先生のご講演はとても興味深い内容でした。インスリンポンプは使用年齢において年齢制限があるわけではないですが、自分での操作することが必要との考えから比較的若い世代での導入がされがちです。しかし収入の面でなかなか導入できない方もいらっしゃるのが現実です。先生は周術期の方や、高齢者に対してポンプの導入をされているケースがあることをお示しいただきました。それは今までにあまり考えてこなかったケースだと思いました。注射拒否される方や針を怖がる方、認知症で注射が難しい方などでCSIIを導入しているなどこれからのCSIIの適用患者さんの幅が広がっていくと感じました。

第2部として症例検討をZoomブレイクアウトルームにて『HCL 導入症例の紹介・検討』として多摩センタークリニックみらいの一神先生、藤井先生から症例を提示していただきました。世話人の先生方がファシリテーターとしてルーム内をリードして頂きSGDを行いました。報告者は検討内容までは把握できていませんが、実りある症例検討ができたのではないのでしょうか。

次回は秋頃に第25回を開催する予定です。ハンズオンで実際に機器に触れたりしながら研修会を開催します。多くの先生方に参加していただけると幸いです。

報告

第34回武蔵野糖尿病医療連携の会Hybrid学術講演会

日時: 令和5年6月24日(土)
場所: ワイム貸会議室立川

令和5年6月24日(土)に第34回武蔵野糖尿病医療連携の会Hybrid学術講演会をワイム貸会議室立川を会場として会場参加ならびにWeb配信のHybrid形式で開催いたしました。今回のテーマは「新しい治療、薬剤について」で3人の先生にご講演いただき、会場参加、Web参加合わせて97名が参加されました。

演題1では東京都立多摩総合医療センター内分泌代謝内科 部長 辻野 元祥先生より『ミトコンドリア機能改善をめざした糖尿病治療』と題し、ミトコンドリアの機能、ミトコンドリア糖尿病について解説いただき、さらに新しい薬剤であるイメグリミンについてその機序、有効性と安全性、実臨床での使用経験などについてご提示いただきました。

演題2では立川相互病院 糖尿病・代謝内科 科長 宮城 調司先生より『GLP-1受容体作動薬をどう使うか』と題し、各GLP-1受容体作動薬の特徴を示し、剤型の違い、体重への影響、作用時間の違いによる使い分けについて実際の症例を交えながらご提示いただきました。

演題3では東京都立多摩総合医療センター内分泌代謝内 川崎 元樹先生より、『当院における基礎インスリン/GLP-1RA配合注の使用経験』と題し、配合されているGLP-1受容体作動薬単独での特徴を解説いただき、基礎インスリン/GLP-1受容体作動薬配合注の使用症例を提示、そしてその経験から配合注の使い所をご解説いただきました。

次回も皆様のご参加をお待ちしております。



第10回日本糖尿病協会年次学術集会

令和5年7月22日(土)～23日(日)

国立京都国際会館

さいたま市民医療センター

出浦 厚子 [看護師]

今年も猛暑盛りの京都で第10回日本糖尿病協会学術集会が開催されました。現地開催と会期後のオンデマンド配信を合わせたハイブリッド開催であり、私は現地開催に参加させていただきました。2013年に第1回目を開催してから今回で10回目という節目を迎え、本会長であり日本糖尿病協会の理事長でもある清野 裕先生から、この間における糖尿病医療の発展やCOVID-19の流行に付随する社会、医療業界の変革といったメッセージがありました。それらの経験に基づく節目の学術集会であり、本会のテーマは「つないだ10年ひろげる10年～チームで学んでゆたかな未来へ～」とされ、これまでの道のりを振り返りつつ、新たな未来を見据えて一步を踏み出していくことを参加者全員が意識するような内容であったように感じます。また、本会では外国籍の方々も多く見受けられました。国際糖尿病連合西太平洋地区会議2023、第15回 アジア糖尿病学会学術集会との同時開催が行われ、海外からの参加者との交流や本邦の糖尿病医療に関する取り組みの発信の場ともなり、本会が国内外の糖尿病医療に携わる方々と交流の場として発展していることに、糖尿病医療に携わる一医療者として感慨深い思いを抱きました。

本会においては例年同様、様々なテーマで糖尿病医療についての討議が展開されました。その中で、私は2つのスモールグループディスカッションに参加させていただきました。1つ目は「サポートが必要な高齢者」で、2つ目は「インスリンポンプ利用者」というテーマでした。「サポートが必要な高齢者」ではワールドカフェ方式で開催され、自由な発言や発想をもとに参加者の印象に残った症例に対するSEA(Significant Event Analysis: 有意事象分析)を行いました。各グループの参加者も看護師、医師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師など多職種で構成され、各々の専門的視点をも加味しながら高齢者が生活と糖尿病治療を円滑に行っていくためのサポートについて意見を出し合いました。興味深かったことは、その内容として地域の行政や民間のサービスだけでなく、通院時の車の同乗といった患者同士の助け合いやIT(Information Technology)、AI(Artificial Intelligence)を活用したものなど多様な意見が聞けたことでした。「三人寄れば文殊の知恵」というように、自分一人では考えつかないことも他者と交わることで多様な視点に気づくことができると、本ディスカッションを通して改めて感じることができました。2つ目の「インスリンポンプ利用者」では、私も含めた参加者の多くが実際にインスリンポンプを扱う機会が少なく、CGMやカーボカウントといったポンプ療法に関連する基礎的知識から学びたいという方が多い印象でした。限られた時間の中ではありましたが、実際にインスリンポンプの仕組みや設定などをファシリテーターの方に教わりながら参加者自身で行うことができました。またCGMデータの読み解き、生活における血糖管理について患者と共に考えていく、我々療養指導士の役割の重要性を感じました。糖尿病医療が進歩していく中でも、患者の生活と血糖管理を絡めながら身近な支援者として役割を果たしていきたいと思えます。

今回の学術集会において、例年同様多くの情報と学びを得ることができました。自施設において携わる患者に還元し、また他職種との情報共有にも努めていきたいと考えます。最後に、糖尿病をもつ方々の生活と治療がより向上していくことを願います。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 5 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

- 1: ○ 心筋虚血があっても20～50%は胸痛を訴えない(無症候性心筋虚血)。特に糖尿病性神経障害の強い患者でこの傾向が強い。
- 2: ○
- 3: ○ 喫煙あり、糖尿病性神経障害あり、血糖コントロール不十分、視力障害など、足病変のハイリスクである。
- 4: ○
- 5: × 血糖コントロール不良(空腹時血糖 250mg/dL以上)では運動療法は控える。また、自律神経障害があり、心機能に関する評価を運動導入前に行う。増殖前網膜症や増殖網膜症がある場合も急激な運動は控える。

研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 第37回 多摩糖尿病チーム医療研究会

 申込必要

テーマ：『糖尿病の社会的側面』

開催日：2023年10月12日（木）19:00～20:45

参加方法：Zoom / 立川相互病院 講堂（立川市緑町 4-1）

申込：プログラムに記載のURLよりお申し込みください（9/29締切）

問合せ：大正製薬㈱（担当：高津） メール：yu-takatsu@taisho.co.jp

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

 ハイブリッド

 参加費無料

 第14回 西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

 申込必要

テーマ：『コロナ禍で知った糖尿病運動療法のニューノーマル』

開催日：2023年10月22日（日）8:30～17:00

場所：北里大学薬学部 2202大会議室（2号館）・体育館（アリーナ等）

（JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分）

参加費：当法人会員 6,000円 / 一般 8,000円（いずれも昼食代込み）

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（10/15締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：2単位

☆健康運動療法士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な必修単位＜講義/実習＞：計6.8単位

 第40回武蔵野糖尿病研究会

 申込必要

開催日：2023年10月28日（土）18:20～20:00

参加方法：Microsoft Teams / スイングビル南棟10階 スカイルーム（武蔵野市境2-14-1）

参加費：Web参加 無料 / 会場参加 500円

申込：プログラムに記載のURLよりお申し込みください（10/20締切）

問合せ：ノボノルディスクファーマ㈱（担当：遠藤） メール：hzqe@novonordisk.com

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：0.5単位申請中

 ハイブリッド

 第62回糖尿病診療—最新の動向 [医師・医療スタッフ向け研修講座]

 申込必要

開催日：2023年11月12日（日）9:30～13:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：3,000円

申込：糖尿病情報センターHPに掲載の申込フォームよりお申し込みください（11/5締切）

問合せ：糖尿病研修講座事務局 メール：dm-inf1@hosp.ncgm.go.jp

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：7単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第2群＞：1単位申請中 他

 オンライン

 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第25回研修会

 申込必要

テーマ：『User-friendlyな治療を目指して～ハンズオンセミナーでポンプの最先端を体験しよう！』

開催日：2023年11月28日（火）19:20～21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（11/21締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/ Email:info@cad-net.jp

編集後記



今年は5月の鹿児島、8月の京都、9月の神戸と4年ぶりに様々な糖尿病関連のリアル学会に参加することができました。自宅でパソコンの前に座って「勉強する」ことは十分できますが、ポスターを印刷したり、会場までの道に迷ったり西郷隆盛像に挨拶したり、海に見える大学のキャンパスに感動したり、そして皆様と夜遅くまで情報交換したり・・・やはりこれですよね。これからもよろしくお願ひ致します。

（広報委員 小林 庸子）